



中学校 社会科のしおり

2010年度
2学期

9

月号

社会科の先生方
でご覧ください



帝国書院





(⑤2003年撮影)

写真で見る社会科

上海の新しい市街地と旧市街の再開発

大都市における超高層ビル（摩天楼）といえば、アメリカのニューヨークが代表的だが、最近はアジア、とくに中国において超高層ビルの建設が急速に進んでいる。なかでも上海では、200m以上の高さをもつものが40を数え、香港や広州を抜いて中国第一の超高層ビルが林立する景観を誇っている。表紙の写真は、市の中心、^{フワンプー}黄浦区の人民広場の東南に建つラッフルズ・シティ^{ライフン}（来福士広場、2003年に生まれた若者向けファッション中心のショッピングセンター）の50階から東方向を見たもの。上方を左右に横断する川が黄浦江で、その向こうの高層建築群が、1990年国家級の重点開発区として設定された陸家嘴金融貿易区（現浦東新区）である。浦東新区は過密な上海中心市街地から離れて、1993年に新しい都市開発を進めるために生まれた行政区であり、1999年には新上海国際空港が開港し、地下鉄2号線の龍陽路駅（写真⑤）までの約30kmにリニアモーターカーの路線が敷かれた。

表紙写真の左上にある球形の展望台を備えた塔は東方明珠テレビ塔（1994年完工、高さ468m）、その右側、ひとときわ高い二つのビルが、左からチンマオビル（^{チンマオビル}金茂大廈、1998年420m）と上海ワールドファイナンシャルセンター（SWFC上海環球金融中心、2008年492m）で、後者は日本の森ビルが企画設計を担当した。現在このすぐそばに上海タワー（2014年完成予定632m）が建築中である。近くには現在開催中の万博会場もある。

しかし上海市東部は唐代以降に陸化した新しい三角州で、多数の高層ビルの建設、地下水の汲上量の急増により、地盤沈下が急速に進んでいる。チンマオビル周辺では年間30mmから60mmに及ぶという報告もある。

<表紙写真、上記写真①⑤：◎周秀泉>

SWFCから東の方角を見たのが写真①で、高層ビルの間に多くの集合住宅が建てられている。このような住宅の売買を斡旋する不動産業も盛んで、写真③は店舗の前に貼られた広告。高いものだと3000万元以上、安いものでも250万円前後という価格は日本の高級マンションと変わらない。浦東新区は、生活のための最新の設備も整っており、写真④は図書館に備えられた自動貸し出し装置。

一方、表紙写真の下部に写っている黄浦江より西に広がる旧市街地では、再開発（旧城改造）によって、上海書城や世界貿易ビルをはじめとする高層ビルや新しい高層集合住宅が建設されている。写真に写っているのは、南北は延安路から漢口路にかけて、東西は外灘（バンド）から浙江中路あたりまでの地区で、戦前の共同租界で最も人口稠密、里弄と呼ばれた庶民の住む路地が連なる一角であった。なかでも写真中央をバンドに向かって走る福州路は、四馬路とも呼ばれ、昼夜にわたって繁華な街路であった。手前の左側には2006年建設の中福城という最新の集合住宅群があるが、右側には1920～30年代に造られた里弄様式の低層集合住宅が残っている。このような再開発にあたっては、もともと居住していた住民は強制退去させられ、郊外の集合住宅を斡旋されるが、その補償をめぐるトラブルも頻発している。また不動産業者と富裕層による投機目的の高級住宅の開発も多く、健全な都市開発の障害になっている面もある。急速な再開発の中で、古い上海の雰囲気を残そうという動きもあり、写真②は旧市街地の中でも、フランス租界の一角に古い路地の雰囲気を活かして設けられた田子坊という観光スポットである。（滋賀大学教授 秋山元秀）

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。国内・海外で撮影された社会科の写真を、資料編集部「中学校社会科のしおり」係までお送りください。